

「いわての師匠」派遣事業 実施事例集

令和2年度

【事例①】岩手県立盛岡商業高等学校への講師派遣

日時： 令和2年8月21日（金）～12月18日（金）（計5回、毎回13:35～14:25）

場所： 岩手県立盛岡商業高等学校

対象： 流通ビジネス科3年生 78名

講師： 岩手県信用保証協会 大川康亮 他

内容： 科目「課題研究」における企業までの流れ、ビジネスプランを学ぶ

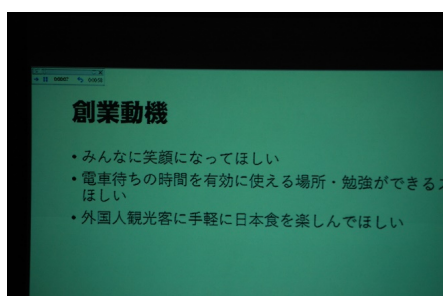
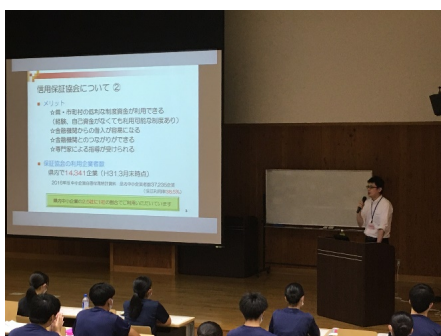
<要旨>

- ・第1回「保証協会について、事業計画作成について（概要～事業領域）」
- ・第2回「事業計画作成について（収支計画作成）」
- ・第3回「事業計画作成の進捗確認」
- ・第4回「プレゼン資料作成の進捗確認」
- ・第5回「作成した事業計画のプレゼン」

<参加者からの感想>

毎時丁寧な授業を展開していただいた。生徒たちの質問に答えるだけでなく、作成途中の事業計画について、何度となくメールでのやりとりも行っていただき、精度の高い事業計画を作成することができた。この計画を作成することで、地域について店舗賃料や給料、最低賃金など深く考え、地域の現状を把握することができ、より地元への愛着が深まったと感じている。また、柔軟な発想から新しいビジネスモデルを創造することができ、この生徒たちの中から将来の起業家が生まれるのではないかと期待感も持つことができた。指導に当たっていただいた大川さん、高橋さんには感謝しかございませんし、ぜひ来年度以降も継続してご指導をいただきたいと願っております。

<写真>



【事例②】釜石市立釜石中学校への講師派遣

日時： 令和2年10月8日（木）8:45～15:20

場所： 釜石市立釜石中学校

対象： 2年生 94名

講師： 岩手大学地域防災研究センター 教授 福留邦洋

内容： 講義・演習「学校・家庭・地域での日ごろの備え、防災教育に関わること」

<要旨>

2年生3学級において、学級毎に1時間目は講義、2時間目は演習を実施した。

講義では、震源の分布を世界地図で確認し、日本で世界の地震の20%が起きていること、災害とは自然の力が人の生活に被害を与えることであること、よって災害は自然のエネルギーだけでなく人の生活にどの程度の被害が出たのかということの2つの積で考えなければいけないこと、災害伝言ダイヤルの使い方、避難所運営、ボランティアなど多岐にわたってお話いただいた。

演習では、学区の地図に自分の自宅、避難所と避難場所、浸水区域や土砂災害の危険性がある場所をプロットし、どのような避難行動をとるべきかを学んだ。

<参加者の感想>

- ・「自分の住むところの危険な所や安全な所を知り、災害が起きたらどうするべきか考えられて良かったです。それから、災害が起きてからの行動、災害が起きる前に対策をしておくことが大事だと知りました。しっかり対策をしておけば被害は最小に抑えられると知ったので、準備をしておきたいです。」
- ・「今回のように白地図と照らし合わせて詳しい浸水地域、土砂崩れの危険性がある箇所などを調べたのは初めてでした。『想定にとらわれない』とか『そのときになってみないと分からない』といったことはよく聞きますが、今回のように前もって確認しておいた方が安心だなと思いました。」
- ・「小学校の頃から何度かハザードマップを活用した学習はしてきましたが、今回はその中でも一番具体的で手順の多いものでした。私は今年の春に引っ越しをして、自分の家の周りのことが把握しきれいでなかったもので、授業で確認できて良かったです。また、地域に設置されている倉庫等、住民を守るしくみがあると知ることができました。一方で、避難所の人々が密着する状態を見て、『家での設備を備えることが必要だ』と感じました。」

<実施の効果>

生徒の感想にもあったように、ハザードマップを見てはいても、実際の行動までのシミュレーションをすることが難しい状況にあった中、このような機会をいただいたことで、実感を持って避難行動について考えることができたと感じる。

<写真>



【事例③】北上市立黒沢尻北小学校への講師派遣

日時： 令和2年9月15日（火）及び9月23日（水）9:00~14:00

場所： 北上市立黒沢尻北小学校

対象： 3年生66人 職員6名 保護者11人 地域7人、関係機関（北上警察署、市地域づくり課）

講師： 岩手県立大学総合政策学部 准教授 宇佐美 誠史、アシスタント 中野 五月

内容： 地域安全マップ作成のためのフィールドワーク

<要旨>

児童と一緒にフィールドワークに参加し、危険箇所や安全な場所についての助言を行った。

<参加者の感想>

【児童】

- ・狭い歩道に雑草が生えていたり道路に穴があいていたりして危険だと思いました。皆にも教えます。
- ・危険箇所のメモを取るのが難しかったけれど、地域の方が教えてくれて自分でも書けるようになった。
- ・私たちが訪ねたこども110番は今まで駆け込んだ人がいないそうです。平和でいいなあと思いました。
- ・歩いてどういう場所が危険なのかと分かりました。交差点で車が止まらず走っていて怖かったです。
- ・一緒に歩いたお母さんやお巡りさんに私たちが気付かなかった危険について教えてもらいました。
- ・フィールドワークで危険な所や安全な所を知ることができたので、覚えて自分を守りたいです。
- ・フィールドワークで感じたことは地域の方がとても優しいということです。笑顔で分かりやすく教えてくださり、嬉しい気持ちになりました。いつも私たちを見守ってくださりありがとうございます。
- ・信号のない横断歩道がたくさんあったので、右・左をしっかり見て渡ろうと思いました。
- ・坂道の下十字路口には「止まれ」の線があるけれど、急に止まれない時があることを知りました。スピードを出しすぎると危ないという事が分かりました。
- ・曲がり角は、車が来るのがよく見えないから事故が起きやすいことが分かりました。
- ・こども110番の家を訪ねたら「いつでも駆け込んでいいですよ」と言っていただけで安心しました。
- ・大きな地震があった時は「一時避難所」である公園に行くことが分かりました。家が危険な時は、もっと安全な避難所があることも分かりました。

【保護者・地域・関係機関のボランティア】

- ・元気な子ども達からパワーをいただき楽しく回ることができました。子ども達も「楽しいね」と言っていました。3年生は30分がいい時間なのですね。集中力がなくなって歩き方も危なくなってくるので地域のボランティアが必要だと分かりました。時間もコースもちょうど良いです。
- ・想像以上に危険な所が多いことに驚きました。親として、もっと具体的に道路の歩き方について話さなければと感じました。子ども達と話しながら楽しく歩くことができて良い経験になりました。
- ・危険箇所、加害者の目線は、年代と共に変わります。よってこのように毎年マップ作りをすることは将来への大きな財産になります。子どもは我々未来の宝です。我々が守り、子ども達が情報を共有していくことが重要と考えます。
- ・子ども達は各々自分の役割があることで責任を持って取り組んでいると感じました。シールの確認や危険箇所のメモ、写真を撮ること等の行為が危険を回避の意識づけになっていると感じました。
- ・実際に歩いてみると危険な所がより解る。そのためには、やはりボランティアのアドバイスが必要かなと思いました。また、参加しようと思っています。
- ・今年は昨年の3年生が見つけた注意ポイントを確認しながら、更に気を付ける点を見付けながらのフィールドワークでした。7人の子ども達とゆっくり見ながらだったので新たな気付きもありました。
- ・こども110番の家の方が、前日は奥様、今日はご主人の対応でしたが、以前困って駆け込んできた児童の話をしてくれる等、情報を共有されていて、とても良いなあと思いました。

<実施の効果>

昨年度に続き、ご指導いただいていることから、改善点についてご理解いただいた上で児童や地域の方々へフィールドワークで危険を探す視点、ポイントに基づいた指導・助言等をしていただき大変有意義な活動になった。また、今年度は新しい視点として各地区の避難所やハザードマップの見方や活用の仕方等についても説明していただいたことで、町歩きの視点が新たに加わり、地域の安全についての学習が更に深められた。そして、フィールドワーク終了後、今後実施する安全マップ作りについても指導・助言をいただいた（昨年から改善する点について相談に乗っていただき有難かった）。

<写真>



【事例④】一関市立萩荘中学校への講師派遣

日時： 令和2年11月11日（水）13:40～14:40

場所： 一関市立萩荘中学校

対象： 1年生 60名、2年生 58名、3年生 63名、教員 17名

講師： 岩手大学 理工学部 准教授 山本英和

内容： 講義「一関市で被害があった岩手宮城内陸地震など地震災害の特徴とその対応策（備え）」

<要旨>

地震の発生に関するメカニズムや地震が私たちの実生活に与える影響、本市の地質的な環境条件などについて説明していただくとともに、具体的な防災対策など私たちが日常生活で留意すべきことについて説明していただいた。

<参加者からの感想>

- ・地震では家具の転倒による死者が多いこと、一関で強い揺れが起こる可能性が高いことなどが分かった。地震はいつ起こるのか、どのくらいの揺れなのかを前もって知ることができないので、避難した時の非常持ち出し品（特に水）を用意しておこうと思った。地震で大切な命を奪われないようにしたい。
- ・講演会で学んだことがたくさんあった。それは、地震の被害の恐ろしさです。これまで何度も被害の様子を見てきましたが、阪神淡路の実際の映像を見て鳥肌が立ちました。そして、一関にも危険があるということも知ることができたので、いつ地震が来てもいいように、水や非常食の備え、避難場所など確認していきたいです。
- ・私は一関の揺れの確立に一番興味を持ちました。地震の被害や対策については一部分かってはいましたが、自分たちの住んでいる一関市がどのくらい地震の危険があるのか知ることが出来て良かったです。一関市は震度6弱以上になる確率が30%と非常に高い数値だったことにはとても驚きました。地震は予測することは難しいけれど、きちんと防災対策をとって地震に備えたいと思いました。
- ・私は、化学や機械が好きなのですが、微動探査の機械がすごいと思いました。振動を使い、地面の柔らかさを調べるというのは、地震のことについて知り尽くしていないとできないことだと思うので、とても驚きました。自分も何かひとつのことを研究したり、何かすごい研究開発に携わりたいという思いが強くなり、たくさん勉強しようと思いました。

<実施の効果>

子どもたちは、講演内容に興味を持ち、熱心に聞いていた。また、防災対策として避難場所の確認や避難グッズの準備など、災害に事前に備えることが大切であるという感想が多く出された。

教員からも「地震の説明が具体的でその対策のとり方が良く分かった。」との感想が寄せられた。

<写真>



【事例⑤】盛岡市立 乙部中学校への講師派遣

日時： 令和2年11月13日（金）13:30～14:30
場所： 盛岡市立乙部中学校
対象： 2年生15名、保護者6名
講師： 岩手県銀行協会 菊池芳泉
内容： 講義・演習「生活設計・マネープランゲーム」

<要旨>

講師の方の進行で、カードゲーム教材「生活設計・マネープランゲーム」を行った。内容は20～40歳までの人生の中で得られるお金や支出にはどんなものがあるか、引いたカードの結果からゲーム形式でシミュレーションを行った。

参加した生徒は15名。他に保護者7名も授業参観として教室の後ろで生徒の活動を参観した。

<参加者の感想>

マネープランゲームの中で、ローンに頭金が必要なことや、支出の中に非消費支出があることを初めて知りました。難しい「三大資金」のこと、ローンのことはいずれ知っておかなければならないと思っていたので、その仕組みなどを生かして進路についても考えていきたいと思います。

<写真>



【事例⑥】盛岡市立 乙部中学校への講師派遣

日時： 令和2年11月13日（金）13:30～14:30
場所： 盛岡市立乙部中学校
対象： 2年生8名、保護者12名
講師： 岩手保健医療大学 看護学部教授 福島道子
内容： 講義「訪問看護って何？」

<要旨>

訪問看護は医療的ケアの他にも心理的な支援も必要な大切な仕事で、とてもやりがいを感じる仕事であることを学んだ。

<参加者の感想>

看護の中にも訪問看護、看護師、保健室の先生、助産師、保健師など様々な道を選ぶことができることを知った。

<写真>



【事例⑦】盛岡市立 乙部中学校への講師派遣

日時： 令和2年11月13日（金）13:30～14:30

場所： 盛岡市立乙部中学校

対象： 2年生6名、保護者8名

講師： 岩手生物工学研究センター ゲノム育種研究部 阿部陽、園芸資源研究部 西原昌宏

内容： 講演①「ゲノム解読と育種への利用」

講演②「植物バイオテクの今、昔」

<要旨>

遺伝子組み換えで、新しい品種の米や野菜を作っていることや、遺伝子を見つけるための装置について学修を行った。

<参加者の感想>

バイオの研究に向き合う姿から、色々なことに興味を持ち将来の夢を決めることが大切だと思いました。最先端で活躍している人がいることを改めて実感し、自分も社会貢献できるように頑張りたい。

<写真>



【事例⑧】盛岡市立 乙部中学校への講師派遣

日時 : 令和2年11月13日(金) 13:30~14:30
場所 : 盛岡市立乙部中学校
対象 : 2年生6名、保護者7名
講師 : 岩手県宅地建物取引業協会 多田幸司
内容 : 講演「君の可能性にかける～チャンスをつかむには」

<要旨>

チャンスは誰にでも平等に訪れるが、チャンスをつかむ力と見抜く力が本当の力であることなどを学んだ。

<参加者の感想>

勉強は苦手だけど、文武両道を目指して脳と体を鍛えていきたい。支えてくれる人や支えなければならぬという考えがあれば、夢は何だって叶えられるということがわかった。

<写真>



【事例⑨】水沢市立水沢南中学校への講師派遣

日時： 令和2年11月4日（水）13:45～15:15
場所： 水沢市立水沢南中学校
対象： 2年生212名、職員12名
講師： 岩手保健医療大学 看護学部 助教 齋藤史枝
内容： 講演「災害時にまず何をする？何が必要？ ～災害にあったときに大事なこと～」

<要旨>

1. 災害とは何か
2. 災害のサイクル（フェーズ）での医療活動
3. トリアージの体験

<参加者の感想>

- ・私たちの地域は比較的安全な地域だと思っていたが、災害が起きる危険があることを知って、この考え方を改めなければならないと思った。
- ・災害が起きた時に対応できるように、普段から動けるようにしたいし、普段からできないことは災害時にできないということがわかった。
- ・災害時は自分の安全を確かめて、「人のためにできることをさがす」ということを頭に入れておきたい。
- ・場面に適した判断ができるよう大人にたよらず、自分の考える力も身につけていきたい。

<実施の効果>

実際の行動に結びつくかはこれからのことであるが、判断することの難しさを感じながらも、その大切さに気づく生徒が増えてきた。備えの必要性に気づいた生徒や、以下のように実際の行動につながる考えをもった生徒もいる。

- ・避難訓練を何度もやることの意味に気づいた。
- ・命を助けるために自分でもできることは何か、少しでも助けになるのなら、勇気を出して行動していきたい。医療関係者の方々の仕事が少しでも減るように協力したい。
- ・歩けるかどうかで、治療の優先順位が変わるのはわかりやすく、自分でも確実に判断できる。ケガをしている人がいたらすぐに助ける人が必要だ。冷静に判断して、自分が知っている範囲で処置をしたいと思います。
- ・トリアージを体験して、声をかける、伝えるなどのコミュニケーションの大切さに気づいた。

そのほか、職業としての医療に興味・関心をもつ生徒、高まった生徒が増え、キャリア教育にもつなげることができた。

<写真>



【事例⑩】水沢市立水沢南中学校への講師派遣

日時： 令和2年11月9日（月）11:00～12:20
場所： 水沢市立水沢南中学校
対象： 1年生175名、職員10名
講師： 岩手大学 地域防災研究センター 客員教授 土井宜夫
内容： 講演「自然災害が発生するメカニズム・自然災害の歴史」

<要旨>

1. 地震のしくみ
2. 火山噴火の原因

<参加者の感想>

- ・断層があった場所は地震が発生しやすいと学びました。以前起きた場所がわかれば、危険な場所がわかり、備えることができると思いました。
- ・地震は岩盤が割れることで発生することと、噴火の大きさは山によって違いがあるということがわかりました。どれも、自分が思っている以上に危険でおそろしいもので、人ごとではないということを感じました。
- ・災害の中で噴火はあまり考えたことがなかったが、亡くなる人もいますので、関係ないと思わず、知ろうと思った。

<実施の効果>

生徒はこれまでの災害時の行動を振り返り、大人の指示にしたがって行動すること、集団で行動することを知識や体験を通して学んでいた。講演を通して、災害のおそろしさを知り、いつ災害が起きるかを想定して行動することや備えの必要性について考えるようになった。

地震など身の周りで起こる災害に目が向いてしまうが、火山噴火を知ることでその他の災害に関心を持ち、正しい知識を身につける必要性について考える生徒が出てきた。小学生までとは違う行動をとるようになったこともあり、講演会後の事後学習では、災害時の行動や判断について考えるきっかけになった生徒が多い。（以下、事後学習の振り返りから）

- ・地震以外にも知識をもっておくことは大切だと思いました。大人と一緒にいる前提で考えていたが、一人にいるときにも災害は起きると考えると、自分一人ですることを知っておきたいと思いました。
- ・何かあったらすぐに行動するのはどの災害でも同じなので、周りの人が行動していなくても、早めに行動することは悪いことではないので、行動できるようにしたい。
- ・自然災害はなくすことができないので、正しい知識を身につけて、自分の命を自分で守れるようにしたいと思いました。

<写真>



【事例①】久慈市立長内中学校への講師派遣

日時： 令和3年2月4日（木）13:40～15:10

場所： 久慈市立長内中学校

対象： 1年生75名、職員8名

講師： 岩手医科大学 災害時地域医療支援教育センター センター長 眞瀬智彦

内容： 講演「災害時医療について」

<要旨>

- ・ 阪神大震災などを例にした災害時における医療および災害現場の現実
- ・ 避難所での生活（衛生面・気をつけるべきこと・変化）
- ・ 新型コロナウイルス感染症について（感染防止策・今後について）
- ・ トリアージについての説明および実習
- ・ 避難所での生活体験（段ボールベッド・簡易トイレ・備蓄食料）

<参加者の感想>

- ・ 地域の人や家族と協力して備えることが大切だということを学んだ。災害時の自分の家族の集合場所や飲んでいる薬についても確認しておこうと思った。
- ・ 災害時の避難所での過ごし方を学ぶことができたので、このことを親と話し合い、多くの人に広げていきたいです。
- ・ はじめて学ぶことが多く大変勉強になりました。いままで医療系の仕事には興味がなかったが、選択肢のひとつとして考えてみようと思った。
- ・ トリアージという言葉は聞いたことがあったが、具体的にどのような分け方なのか知らなかったので勉強になった。
- ・ 災害について日ごろからの対策が大切だと思った。また、実習で段ボールベッドの強度にとっても驚いた。
- ・ この地域でも30年以内に地震が起こる可能性があり、いま自分たちにできることは何か考える必要があると思った。

<実施の効果>

東日本大震災から10年という節目の年に、災害時の対応について今一度考えることで、復興教育に繋がる有意義なものであったと思います。特に避難所での生活の大変さは、なかなか自分事として捉えることができないため、実際に段ボールベッドや簡易トイレに触れたことは、生徒たちにとって貴重な経験であったと感じます。また、トリアージについて説明だけでなく実際にカードを用いて演習もして下さり、このことがとても印象に残っている生徒も多くいたようです。備蓄食料もお土産としていただき、その日の夜に家族で食べながら授業で学んだことを交流したと報告してくれた生徒もいました。以上のことから、生徒の心に残る（響く）授業であったと考えます。

最後に、お忙しいなか、また突然の雪のなか長内中学校まで足を運んでくださり寒い体育館で授業をしていただいた眞瀬先生、高坂先生に感謝申し上げます。

<写真>



【事例⑫】盛岡市立黒石野中学校北杜分校への講師派遣

日時： 令和3年2月4日（木）13:40～15:10
場所： 盛岡市立黒石野中学校北杜分校
対象： 小学生1名、中学生9名、教員8名
講師： 岩手大学 地域防災研究センター 教授 福留邦洋
内容： 講演「地震や災害・減災の概要等の説明」
演習「防災カルタ」を使用しての防災に関する演習

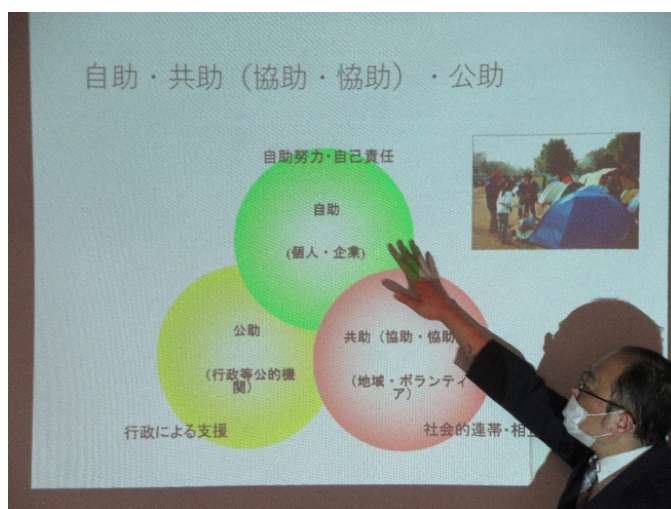
＜参加者の感想＞

- ・災害が起きてからやらなければならないことや、災害が起きる前にいろいろな物を準備することが大切だということなどが分かりました。実際に起きた例に基づいた話が分かりやすく、とても楽しい講義で良かったです。実際に災害が起こったときに、自分に出来ることを考えて、活用していきたいです。
- ・講義を受けて思ったことは2つあります。1つは災害についてです。災害は人の生活に影響しない限りは、どんな大きな地震が起きても、災害にならないということです。災害に基準があることに驚きました。
もう一つは、防災の大切さです。防災についていろいろ知り、改めて大切さを考えることができました。
- ・今日の復興出前授業で学んだことを地域で生かしたいと思います。家から避難所までのルートを確認して、1つのルートだけでなく2つ、3つ考えておき、すぐに避難所に行けるようにしておきたいです。それと、3日分の食料を準備しておいて、非常事態のときに食べられるようにしたいです。地震に備え、転倒防止用品など、物が倒れてこないようにしたいです。
- ・今回、東日本大震災や阪神淡路大震災など数多くの災害を受けて、日本の人や外国の人がどれほど自分たちに協力してくれたのか、災害で何を経験し何を改善したのかを学びました。「171」については昔教えてもらい知っていましたが新しく知ったこともありました。「つなみでんでんこ」など思い出しました。まだ被災地で家や家族をなくし苦しんでいる人がいます。そのことを考えると、少しでも早くみんなが安心・安全にらせて、よりよい社会を作ることが大切だと思いました。そのために自分ができることを積極的にやり、今後また大きな地震が来ても落ち着いて冷静に動きたいです。この学習を今後の生活に生かして楽しい生活を送れるようにしたいです。
- ・この講義を受けることができ、楽しくカルタなどもできてうれしかったです。いろいろなことを知り、命のこともしっかり学べました。防災のことを勉強したので、今後に生かしていきたいです。これから楽しく生活できるよう頑張りたいと思います。
- ・自然災害の備えなどをくわしく、楽しく教えてくれたのでとてもよい2時間になりました。今日聞いたことをこれからは意識して生活していきたいと思います。
- ・家を買う基準は建物の外見とか間取り、近所の人がどんな人、お風呂は・など、周りにばかり考えが行ってしまいがちですが、地震が来たときを想定して土地に気を配ったり、築何年からが良いのか、具体的に説明をしていただき、なるほどと思いました。防災について考える機会がないと考えることまで、深く教えていただき、大人になったときの家探しや暮らし方、普段の生活の在り方を考えることができました。安全で安心できる生活ができるように、備えたり、家族と確認したりして、もしもの時に素早く動けるようにしたいです。
- ・今日の授業を受けて、もしもの時に備えて準備をしておくことの大切さや、将来自分のためになることを知ることができました。また、これまであった災害のことを学び、どんなことがあったのかを知ることができました。いざという時の備えが自分は全然できていないなと思ったので、家族と話し合いをして、対策をしておくことが必要だと思いました。また、家具を固定しておくことは自分でもできると思ったので、実践してみたいです。災害で被害に遭ったことはあまりないけれど、いざという時のために対策をしっかり行っておき、自分の命をしっかり守れるようにしたいです。
- ・福留先生は生徒にわかりやすかったです。そのおかげで、3.11の時のことや災害にあったときの

避難の仕方を覚えることができました。

- ・防災カルタで、災害が起きた時や災害が起きる前にやらなければならないことがわかりました。楽しくわかりやすく授業ができました。ありがとうございました。

<写真>



令和元年度

【事例①】認定こども園 都南幼稚園への講師派遣

日時： 令和元年8月1日（木）10時00分～12時00分
場所： 認定こども園 都南幼稚園
対象： 教職員 6名
講師： 岩手大学 地域防災研究センター 教授 福留 邦洋
演題・内容： 危機管理マニュアルの中身に関する意見交換

<講演要旨>

本園の危機管理マニュアルが、園の規模、立地条件、周辺的环境に対して適切なものになっているか等について、意見交換を行った。

<参加者からの感想>

・本園で作成した危機管理マニュアルに沿って、具体的にわかりやすく改善点を教えていただきました。様々な状況を盛り込んで自分たちなりに作成してみたマニュアルでしたが、専門の先生に見ていただくと、曖昧だったり、抽象的でいざというときに迷いが生じる内容であることに気づかされました。先生に教えて頂いたことを元に、充実したマニュアル・訓練となっていくように今後につなげていきたいと思えます。ありがとうございました。

<写真>



【事例②】釜石市立 大平中学校への講師派遣

日時： 令和元年9月1日（日）10時45分～12時35分

場所： 釜石市立 大平中学校

対象： 53名（生徒27名、保護者22名、教職員4名）

講師： 岩手大学 地域防災研究センター 教授 福留 邦洋

演題・内容： 学校区内の土砂災害ハザードマップの作成（DIG）

<要旨>

学区の白地図を使って、地域の地形や道路・施設・人などに印をつけながら明らかにし、災害のリスクや避難について考える防災マップ作りを行った。

<参加者からの感想>

- ・ 危険な場所や、災害が起きたときに避難できる場所を地図に書き込んでみて普段わからないことや知らないことが知れたので良かったです。私の家の裏が山になっていて大雨が降った時に土砂崩れが起こる可能性があるし、道が狭いので消防車などが入れないことも改めてしっかり知れたので、いい機会になりました。もし大きな地震や災害が起きたときには今日学習したことをもいだしながら冷静に行動したいし、その時に今日作ったハザードマップを活用したいです。
- ・ 普段気にしていないことだったのに、探してみると危険な場所が多いと思いました。でもその逆に、災害が起きたときに頼れる人がたくさんいることも知りました。今日の学習から、もしもの時に備えての地域の人との交流が大切だと思いました。
- ・ 自分たちの住んでいる地域の特徴を改めて知ることができました。また近所にどのような方々が住んでいるのか親だけでなく、子ども達も知っておくことが必要だと感じました。今日はありがとうございました。

<写真>



【事例③】住田町立 有住中学校への講師派遣

日時： 令和元年10月8日（火）10時30分～15時30分

場所： 住田町立 有住中学校

対象： 52名（生徒38名、教職員14名）

講師： 岩手大学 地域防災研究センター 助教 松林 由里子

演題・内容： 防災マップを活用した大雨洪水のワークショップ

<講演内容>

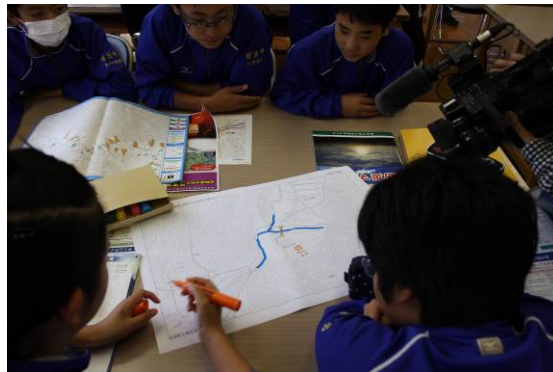
住田町防災教育ハザードマップを利用して、洪水、土砂災害の発生予測や避難経路の作成など、ワークショップを行った。

- ・ 避難の種類
- ・ 地図の等高線から災害想定区域を考える
- ・ 洪水、土砂災害の発生メカニズム
- ・ 学校から緊急避難までの危険地帯の視察

<成果等>

- ・ 災害を常に想定した危機管理意識を醸成することができた。
- ・ 自ら判断して避難することの大切さを学ぶことができた。
- ・ 通学経路の危険区域を知ることができた。
- ・ 有住中学校周辺の危険区域を知り、安全な避難経路を策定した。

<写真>



【事例④】岩手県立 盛岡第一高等学校への講師派遣

日時：令和元年10月21日（月）13時20分～14時40分

場所：岩手県立 盛岡第一高等学校

対象：879名（全校生徒820名、教職員59名）

講師：岩手大学 地域防災研究センター 客員教授 越野 修三

演題・内容：「災害時の避難行動について」

<要旨>

- ・ 災害時のデータや画像を元に自然災害の恐ろしさとそこから自分の命を守る行動の取り方
- ・ 令和元年10月に発生した台風19号の状況から地域の浸水を考える（ハザードマップについて）

<参加者からの感想>

「自分だけは大丈夫」という思い込みを捨てて、自分の問題として災害をとらえるきっかけとなった。避難訓練の重要性を理解することができた。

平成30年度

【事例①】八幡平市立西根中学校への講師派遣

日時：平成30年7月2日（月）10時45分～12時35分

場所：西根中学校

対象：西根中学校 第2学年 86名

講師：岩手医科大学 眞瀬 智彦 教授、藤原 弘之 准教授

藤原 淳一 教務課長、蒲澤 優、奥野 史寛、高須 翠

演題：『災害医療について』

<講演要旨>

- ・災害医療について
- ・トリアージ、衛星電話、トランシーバー、ラップポンについて体験

<生徒からの感想>

- ・災害時に治療の優先順を決めて、一人一人の治療をするには、迅速で的確な行動が大切だと思った。中学生として少しでも助けられることができるような行動をしていきたい。また、災害時用の道具はあらゆるケースに対応でき、わかりやすい使い方でとても有能なものだと思った。
- ・「災害医療」とは限りある資材で多くの人を助けることであることがわかった。人の命に優先順位をつけるのはつらいことだが、多くの命を助けるためには仕方がないことだと思った。今回の話を聞いて、多くの命を助けたいという思いが伝わってきた。「自助」「共助」がとても大切だと感じた。

<写真>



平成 29 年度

【事例①】一戸町立鳥海小学校への講師派遣

日時：平成29年11月18日（土）13時45分～15時15分
場所：鳥海小学校
対象：鳥海小学校 第1～6学年（全校）、保護者・教職員 計36名
講師：岩手大学 教育学部 非常勤講師 吉田 智子
演題：『きょうもげんきだ！－はやね・はやおき・あさごはん－』

<講演要旨>

- ・子どもの成長と睡眠の関係について
- ・朝食の役割と献立について
- ・外遊びと運動能力の関係について

<生徒からの感想>

- ・はやね・はやおき・あさごはんのことをたくさんおしえてもらいました。8時にねるといいことがわかりました。今度から8時にねたいです。
- ・生活習慣を見直すいい機会になりました。よりよい生活をしていこうと思いました。

<保護者・教職員からの感想>

- ・子どもたちが90分間もしっかり話を聴いていたことに驚きました。睡眠の時間だけではなく、睡眠をとる時間帯も大事だと解りました。朝食はご飯と具だくさんの味噌汁がよいと聴き、早速見直しをしようと思いました。
- ・睡眠の役割や学力との関係、睡眠不足が不登校を引き起こすことなど、お話を聞いて知らなかったことがたくさんありました。

<講演による効果>

長年研究を続けてきた講師から睡眠や朝食の大切さを、豊富な資料と具体的な例を示していただきながら解りやすく教えていただきました。生活習慣を見直したいという児童が多く見られました。児童・保護者・教職員と三者が同時に講演を聴くことで、今後も協力し合いながら実践するための拠り所となる有意義な講演会となりました。

<写真>



【事例②】八幡平市立西根中学校への講師派遣

日時：平成29年7月6日（木）10時45分～12時35分
場所：西根中学校
対象：西根中学校 第2学年 84名
講師：岩手医科大学 眞瀬 智彦 教授、 藤原 弘之 准教授
演題：『災害時の医療について』

<講演要旨>

・衛星電話、トランシーバー、携帯トイレについて体験

<講演による効果>

災害がなんどき起きるか分からないので、そのために心の備えをする必要がある。その時のためにもこのような体験は必要であると思う。

<写真>



平成 28 年度

【事例①】山田町立豊間根中学校への講師派遣

日時：平成28年6月25日（土）13時30分～15時10分
場所：豊間根中学校
対象：豊間根中学校 第1～3学年（全校）、保護者・地域関係者 計93名
講師：岩手大学 人文社会科学部 栗林 徹 教授
演題：『中学生からの体力づくりと健康—生涯の健康のために—』

<講演要旨>

- ・中学生の体力と重要性
- ・体力づくりと健康
- ・生涯を自立して健康的に過ごすために

<生徒からの感想>

- ・保健体育でも習ったが、今が成長期なので、体力作りにはしっかりと取り組むことが大切だと改めて感じました。
- ・加工食品に多く入っている「リン」が骨の成長を阻害すると聞いて驚きました。食生活を見直していきたいです。
- ・メタボリックシンドロームの予防には、運動が一番大事ということがわかりました。運動が苦手だけどいまのうちにできるだけ動きたいと思いました。

<保護者・地域関係者・教職員からの感想>

- ・中学生の時期が体を作っていくうえで、一番大事な時期だということ、栄養面も運動面でもいろいろお話が聞けてよかったです。
- ・とても良い内容でした。中学生にもわかりやすく、楽しく聞き学ぶことができました。体をつくることの大切さがよくわかりました。
- ・大人にも子供にも共通した内容は難しいと思いましたが、わかりやすく話してくださったのでよかったです。保護者の方の参加がもっとあったほうがよかったと思いました。
- ・授業で説明している内容の裏付けとなる理論を話していただき、子供たちにも話の内容がスムーズに入ったと思います。
- ・子供の食について気になっていたもので、今日は食について話題にできそうです。

<写真>



【事例②】学校法人龍澤学館 盛岡中央高等学校への講師派遣

日時：平成28年9月24日（土）9時00分～10時30分
場所：盛岡中央高等学校
対象：盛岡中央高等学校 特進SZ/Zコース 第3学年 124名
講師：岩手県復興局 推進協働担当課 鎌田 徳幸 課長
演題：『復興を力に！－世界に羽ばたけいわてっ子－』

＜講演要旨＞

- ・東日本大震災津波による被害状況
- ・復興に向けた取り組み状況と課題
- ・岩手県の人口推移と課題
- ・復興と地域づくりに求められる人材

＜生徒からの感想＞

・復興へ向けて着実に進んではいるものの、その道のりの長いことがよく分かりました。なりわい・安全・暮らしのいずれか一つでも欠けてしまえば成り立たないことや、様々な方面に向けて同時進行に進めていかなければならないその過酷さを実際のデータから感じる事ができました。これまで以上に自分が社会に対して何をすることができるかを考えていきたい。（SZ3年女子）

・復興というと、流された建造物や土地をもう一度もとに戻すことだと思っていた。しかし、復興にはいろいろな目的もあり、必ずしも建造物を直すとは限らない。復興とは失ったものを戻しつつ、これからのことを考え、新しいものを生み出していくことだと知った。（Z3年男子）

・テレビや新聞で被災した地域に関して、ある程度知っていたつもりでいたけれど、数字で表された資料はあまり見てこなかった。岩手県民として被災地の現状を把握できていなかったと感じた。これから、どのような進路に進むにしても、自分の生まれ育った県や地域のことを知っている必要があると思った。岩手県のことに限らず、日本・世界の様々な問題について、他人事と思わず、その解決策を考えていけるようにしたい（Z3年女子）

＜講演による効果＞

震災津波の経験から、自らのあり方を考え、これからの社会をどう創りあげていくのかを考えるととても良い機会となりました。

＜写真＞



【事例③】盛岡市立見前南中学校への講師派遣

日時：平成28年10月17日（月）10時55分～12時45分
場所：見前南中学校 体育館
対象：見前南中学校 全校生徒 455名、教職員 25名
講師：岩手大学 大学院教育学研究科 森本 晋也 准教授

<講演要旨>

・防災教室

- (1) 巨大地震、津波、台風、土砂災害等の自然災害に対する知識を学ぶ。
- (2) 大きな災害に対応し、迅速かつ的確に避難場所に移動することができるようにする。

<生徒からの感想>

・今日の学習で、自助、共助、公助を学びました。災害が起こったときには、まず自分に命を大切にし、次に家族や地域の人を助けていきたい。今日学んだことを、家族と話し合っ、災害の備えをしっかりとできる人になりたい。

・今日の防災の授業を受けて、自分で自分の命を守ることがとても大切だという気持ちがより強くなりました。また、自分が気づいていなくても、身近にはたくさんの危険があることを知ったので、災害があったときでも無いときでも周囲に気を配って、自分で身を守るようにしたいと思いました。普段から危険な場所に近づいたりしないようにしたり、家具の置き方を変えたりして工夫してみたいと思いました。

・防災の話聞いて、自分の命は自分で守ることの大切さに改めて気づくことができた。特に、津波の速度は速いため、人を助けたり迎えに行ったりするよりも、先にまず自分で逃げることを小学校低学年の子が理解していたのがすごいと思った。家庭でも、普段から避難経路や避難グッズを確かめておき、いざという時のために準備しておこうと思った。

・今日の防災教室を受けて、自分の命を自分で守ることは当たり前のことだけど、いざ地震や他の災害が起きたときに正しく行動することが、簡単なことではないと思った。これからも、防災訓練をしっかりと、いざというときに動けるように備えようと思った。また、日頃から防災への意識をもっと高め、家族とも普段から避難場所について話しあっておこうと思った。

<写真>



平成 27 年度

【事例①】花巻市立大迫中学校への講師派遣

日時：平成27年6月17日（水）14時00分～14時50分

場所：大迫中学校

対象：大迫中学校 第1～3学年（全校） 118名、教職員10名

講師：岩手医科大学 災害医学講座 眞瀬 智彦 特命教授、藤原 弘之 特命助教

演題：『災害医療について・災害時の情報伝達について』

<講演要旨>

- ・災害医療の概要
- ・トリアージ、瓦礫の下の医療活動、広域搬送、DMATの活動等
- ・災害時の情報伝達（トランシーバー、拡声器、衛星電話等）
- ・実演、演習

<生徒からの感想>

「救急医療と災害医療の違い、どんな状況が災害といえるのか、災害のときの連絡方法、災害が起きたらなど知らないことがたくさんありました。講演だけではなく実演もしてくださったので、さらにわかりやすかったです。」

「トリアージで傷病者の治療の順位を決めることや、広域医療搬送で他県などに搬送することなど、医療に携わる人は本当に大変だと思いました。もしも災害が起きたとき、自分を守り、周りの人と助け合ったりすることや、普段からどこに避難するか、食料はどこかなど考えていきたいと思いました。」

<講演による効果>

生徒は実演や演習もあったこともあり、いつもにも増して真剣に集中して講演に参加することができていました。災害医療や防災について学ぶ貴重な場になっただけでなく、日記に感想を書くなど、学習したことを自分のこととして感じることができ、大変有意義な講演会でした

<写真>



【事例②】岩手県立久慈高等学校への講師派遣

日時：平成27年7月17日（金）13時15分～14時55分

場所：久慈高等学校 視聴覚室・数学演習室

対象：久慈高等学校 第3学年A組 29名

講師：一般社団法人岩手県銀行協会 常務理事 菊池 芳泉

<講演要旨>

- ・ライフステージで学ぶ銀行
- 講義形式でさまざまな銀行の役割を講演
- ・ライフプラン作成
- パソコンを利用して実際に自分自身の生涯マネープランをつくりながら金銭的な感覚を養う。
- ・金融犯罪の手口と対策
- 近年増加する特殊詐欺やインターネット犯罪について講演

<生徒からの感想>

- ・銀行の仕事を誤解していた。思っていたよりも多くの仕事をこなしていることに驚いた。
- ・最初は興味なかったが、自分にも関係あることだと思えるようになった。
- ・教育や家を建てるのにそんなにお金がかかるのかと不安になった。
- ・意外と給料をもらえることに驚いた。
- ・意外と給料が少ないことに驚いた。
- ・計画をたててみると、楽には暮らせそうにないのでコツコツとがんばっていくしかない。
- ・うちのおばあちゃんも詐欺に遭いそうになり、この本を見せてあげたい。

<講演による効果>

生徒は文系で、経済系に進む者も多く、また就職希望者がいるクラスでもあり、金融教育は必要だと感じていた。講師はこちらが望むことを丁寧に説明してくださり、途中には作業もあって生徒を飽きさせなかった。お金が身近な存在であると同時に、知らないことが多いこと、扱い方を誤ると危ないものにもなることを実感したようである。今後の進路達成に向けて実りのある講演となった。

<写真>



【事例③】岩手県立杜陵高等学校への講師派遣

日時：平成27年10月2日（金）①12時00分～13時00分

②17時45分～18時35分

場所：杜陵高等学校 ①多目的ホール ②視聴覚室

対象：杜陵高等学校 ①定時制1・2部 107名 ②定時制3部 14名、教職員40名

講師：岩手県立大学 社会福祉学部 准教授 中谷 敬明

演題：『こころの危機とは何か ～”なぜ”と”どうやって”という態度～』

<講演要旨>

- ・トラウマティックストレス、悲嘆
- ・災害後の心の変化
- ・今後取り組んでいくべきこと 等

<生徒からの感想>

・トラウマティックストレスや複雑性悲嘆など、自分では気づかない心の痛みがあり、支援が必要なのだという事を知りました。今でもストレスを抱えて生きている人が大勢いて、その中で自分は贅沢すぎるほどいい生活をできているのだと思いました。人の相談はいつでも真剣に聞いていきたいと思います。

(1・2部 1年女子)

・あまり震災で影響を受けなかった僕は心にダメージを負わなかったが、やはり精神的に大きく傷を負った人たちがいることを再確認できた。今回はストレスについて学んだが、それと同じくらい「良心」という言葉が強調されていた。確立された安心を得るために良心に従って選択し互いに影響しあい社会を動かしていくことが大切ということに気付かされた。これからは何か迷った時には良心に従って行動してみようと思う。(1・2部 3年男子)

・時間が経っても悲嘆から抜け出せない人、逆に時間が経つほどに悲嘆を自覚していく人も多いことに驚いた。幼くして被災した子も周囲にたくさんいると思うので、注意して見守っていきたい。そして自分自身の変化にも意識を向け、不安に思うことがあれば今回の講演を思い出し、ためらわずに周囲の人と話し合ってみようと思う。(3部 4年男子)

<講演による効果>

トラウマティックストレスと悲嘆というキーワードを中心に、災害後の心の変化、われわれが今後取り組んでいくべきこと等についてご講演をいただいた。復興が進みつつある今こそ心の危機はまだ進行中であること、その中でも我々が取り組めることがあることなどの中谷先生のメッセージは、生徒達の心に伝わったと感じた。

<写真>



【事例④】山田町立豊間根中学校への講師派遣

日時：平成27年11月28日（土）13時30分～15時00分
場所：豊間根中学校 体育館
対象：豊間根中学校 第1～3学年（全校） 80名、保護者・関係者 30名
講師：一関工業高等専門学校 機械工学科 准教授 八戸 俊貴
演題：『宇宙開発の歴史と今後の展望 ～人類初飛行から未来まで～』

<講演要旨>

- ・宇宙開発や飛行機開発の歴史、NASA、JAXAのあゆみについて
- ・宇宙旅行や火星移住計画など、宇宙開発の未来について
- ・宇宙開発に関わった人々をとりあげた書籍の紹介

<生徒からの感想>

- ・人類が夢見てきた飛行への憧れが、現実になっていく過程のお話は大変興味深く聞きました。
- ・講演の中で紹介された本を、ぜひ読んでみたいと思いました。
- ・火星移住の話は驚きましたが、宇宙開発が日々進歩していることがよくわかりました。
- ・これまで聞く機会の少ない宇宙開発分野に関わるお話は楽しく、幅広い知識による講演内容にとっても興味を覚えました。
- ・希望する職業とは違う分野ですが、興味をもったことは積極的に自分から調べてみようとする気持ちが大切と感じました。

<保護者・地域関係者感想から>

- ・難しい宇宙開発の話を分かりやすく説明していただいたと思います。中学生には、大変夢のある話が聞けたと思います。
- ・ライト兄弟の飛行機製作時に、当時の人が「機械を飛ばすことは科学的に不可能なこと」と言っていたという説明部分が印象に残りました。不可能を可能にしていくことができると、中学生も勇気をもってけるといいですね。

<講演による効果>

第一線で活躍する講師から専門分野に関わるお話を聴講し、中学生が将来への夢を抱きよりよい生き方を真剣に考える機会となった。また、保護者や地域関係者も中学生と一緒に聴講し、有意義な講演会となった。



<写真>

平成 26 年度

【事例①】岩手県産業教育振興会への講師派遣

日時：平成26年6月12日（木）14時30分～15時45分

場所：サンセール盛岡

対象：平成26年度岩手県産業教育振興会総会並びに理事会参加者約80名

講師：岩手大学 工学部 機械システム工学科 岩淵 明 教授

演題：『地域の現場を担う高卒人材の育成について』

<講演要旨>

- ・岩手県の高校の現状
- ・岩手大学の復興推進活動
- ・いわて未来づくり機構-復興教育作業部会-
- ・専門高校への期待
- ・地域活性化にむけて

<感想・講演による効果>

今回の岩淵教授の講義はまさに時季に叶った内容であり、産業教育を支える者、推進する者にとって新たな決意を促すものとなった。

一方で、専門高校での成績優秀者が県外へ流出する原因については、様々な意見が寄せられた。

曰く

- ① 成績優秀者も潜在的には地元志向がかなり強いこと。地元には優秀な企業の立地が少ないことから、やむなく県外へ流出すること。
- ② 地元には優良企業が立地している場合には、成績優秀者から間違いなく応募していること。
- ③ 四国4県ほどの県土を有する岩手の高校生就職問題を一元的に取り扱うことの困難性（企業立地、通勤距離等を含んだ地域間格差の存在）
- ④ 普通高校卒就職者と専門高校卒就職者との比較が大事（学力・実践力・離職問題等）
- ⑤ 学力面で一方的に普通科より専門科が低位にあるとの認識に疑問（一部の超進学校を除いて）
- ⑥ 震災復興に岩手大学がどのように立ち向かい、貢献しているのかが良く理解できた。

ともあれ、演題「地域の現場を担う高卒人材について」関係者で共通認識することの重要性を学ぶことができ、このような機会を提供してくださった「いわて未来づくり機構復興作業部会事務局（岩手大学地域連携推進課）」の関係の皆様へ深く感謝を申し上げたい。

今後とも当会に対しまして、関係各位の益々のご支援とご協力を切にお願いしたい。

<写真>



【事例②】「奥州市立水沢中学校」への講師派遣

日時：平成26年9月8日（月）13時40分～14時50分

場所：水沢中学校 第1体育館

対象：水沢中学校 第3学年 227名

講師：岩手県復興局復興推進課 菊池 学 推進協働担当課長

<講演要旨>

- 1 岩手県庁・公務員の仕事について
- 2 東日本大震災津波による被害状況
- 3 復興への取組
 - ① 復興に向けてまちづくり
 - ② 復興計画
 - ③ 3つの原則に基づく取組
 - ④ 復興の課題
 - ⑤ 新たな飛躍に向けて

<生徒からの感想（抜粋）>

- ・「復興」とは元通りにするのではなく、元よりもより良いものにするということだと教えられました。今、沿岸の人たちは、正に復興に向けて、日々、努力しているのだということが、菊池さんのお話を聞いて良くわかりました。（3A女子）
- ・復興について自分が知らなかったことばかりで、いつの間にか震災や復興のことに感心を持たなくなっていたのかもしれませんが、自分が知らなかっただけで、たくさんの復興活動が行われていたこと、そして、そのために他県などからのたくさんの協力者が来ているのだと知りました。改めて、助け合うことがものすごく大切なことで、助け合うことでたくさんの困難を乗り越えていくことができるのだと学ぶことができました。（3A男子）

<講演による効果>

「私たちはあの日、あの時を忘れない」と題して、震災の状況を改めて知り、復興の現状を知った上で、自分たちの生き方や将来のことを考えていこうと震災復興学習に取り組んでいます。今回、国や市町村との調整を取り、全体的な復興を推し進める立場の県庁から講師の方を招いて講演していただき、改めて、復興への取り組みは沿岸地域だけの問題ではなく県全体、みんなの復興なんだということを考えさせることができたと感じました。「あの日を忘れない」だけではなく、「自分にできることはなんだろう」と意識する生徒も増えました。この講演の後、沿岸の釜石、大船渡を訪問し更に学習してきましたが、感謝の気持ちを込めた合唱をそれぞれの場所で歌えたのも生徒の変化の一つだと感じました。大きな変化は求められませんが、教育現場での復興教育を繰り返し、機会をとらえて実施していかなければならないと考えております。

<写真>



【事例③】「盛岡市立玉山中学校」への講師派遣

日時：平成27年1月26日（月）13時30分～14時20分
場所：玉山中学校 視聴覚室
対象：玉山中学校 第1～3学年（全校） 27名、教職員8名
講師：岩手県立大学 総合政策学部 伊藤 英之 教授

<講演要旨>

前半は、防災対応カードゲーム教材「クロスロード」を利用し、グループ毎（5人×7グループ）にカードに書かれた事例についてYESかNOか自分の考えを示し、メンバー同士で意見交換を行った。

後半は、伊藤先生による講義を通して、災害対応においては必ずしも「正解」があるとは限らないことや、万が一の場合には、誰もが自分の意見をしっかりと持ち対応すること、そのために災害が起こる前から考えておくことの大切さなどを学ぶことができた。

<生徒からの感想（抜粋）>

- ・突然万が一の場合があった時、「答えがない」と言うことが分かった。どちらを選ぶにしても、決断をしなくてはならないということが分かった。それぞれ違う意見があって、もし自分が災害に巻き込まれても、冷静に判断していきたいと思った。（1年女子）
- ・災害時には生き残った者が勝ちという事が、なるほどなと思った。また、非常時の行動の答えはなくて、どれも正解だという事が分かった。もし、非常時には、僕も適切な判断をして、自分の命や他の人の命を救えるような判断ができるようになりたいと思った。（2年男子）
- ・今日のカードゲームをやっていて、全ての質問に悩んだ。どの答えにも問題点があることも分かった。私たちのグループでは、「命は一つしかないから」ということが共通点だった。伊藤先生が最後におっしゃっていた通り、情報をいち早く得て、それを共有することが大切なのだと思う。（3年女子）
- ・伊藤先生のお話の中で、「この問題に正解はない。生き残った人が勝ちなんだ」という言葉があった。僕はこれを聞いて、まず考えるべきなのだと思う。また、「情報は互いに伝えるべき」という言葉もあり、自分が生きるために行動しながら、皆と協力して助け合っていくことが大切なのだと学んだ。僕の「その時」のために備えていきたい。（3年男子）

<講演による効果>

今回の学習を通して、生徒・教職員共に災害対応を真剣に自分自身の問題と捉え、様々な考えや価値観を共有することができた。また、過去の事例が必ずしも正解とはいえない場合もあることや、実際の災害時には想定外のたくさん問題に直面することを実感し、具体的に災害のイメージ化を図ることもできた。日頃から想像力を高め、意思決定することの大切さを学んだことは、生徒にとって確かな「生きる力」となり、今後の人生がより豊かなものになるものと思っている。最後に伊藤先生、補助に入って下さった学生4名に深く感謝したい。ありがとうございました。

<写真>



【事例④】「岩手県立盛岡第三高等学校」への講師派遣

日時：平成27年2月26日（木）15時05分～16時05分

場所：盛岡第三高等学校

対象：盛岡第三高等学校 第1学年 283名

【講演内容①～③ 希望選択制】

講師①：岩手県立大学 宮古短期大学部 教授 植田真弘

演題①：「沿岸被災地の地域経済を復興から持続的発展の軌道にのせるための課題」

＜講演要旨＞

沿岸の地域経済の震災前と震災後の変化、拡大する内陸との経済格差の現状、地場産業の現状、地域産業が競争をつけるための課題と可能性



講師②：岩手県立大学 社会福祉学部 准教授 細越久美子

演題②：「外国人の防災」

＜講演要旨＞

震災時体験、在日外国人の地位や岩手県在住の外国人の状況、震災時の外国人への支援の状況、普段から外国人とコミュニケーションを取ることの重要性、わかりやすい日本語での情報提供の必要性



講師③：岩手医科大学 こころのケアセンター 副センター長 大塚耕太郎

演題③：「こころの健康について～こころに寄り添うために～」

＜講演要旨＞

流れ星エクササイズ（演習）、人とのコミュニケーションの取り方、良いコミュニケーションを取るための「ON」「OFF」の関係とその関係作りのためのスキル、相手の感情を捉えることの大切さ



＜生徒からの感想（抜粋）＞

- ・大震災の被害から復興には大変革が必要だと思った。僕もしっかり考えて将来は変革を担える人材になりたい。また、絵に描いた餅ではなく具体的に論理的に数字を使って考える未来を創る経済学が楽しいと思った。
- ・今回の講座に参加して日本で外国人の生活を支援するということは興味深いと思いました。今回の講座は、自分の将来を考えるよいきっかけとなりました。また、外国語の勉強をしっかりと積み上げたいと思いました。

＜講演による効果＞

事後のアンケートの結果、「自分の成長や向上のために有意義な取り組みだった」の項目に「そうである」「どちらかというところである」という前向きな評価が9割以上をはじめとして、その他の項目に対しても7割以上の前向きな評価がなされた。このような取り組みは一般教科の学習への意欲や進路意識を喚起する意味でも大きな効果があることを発見できた。